

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ よく考える子ども ○ けんこうな子ども ○ すすんで働く子ども ◎ 思いやりのある子ども 	【目指す学校像】	職員が組織的に協働して、児童が主体的に活動し、生涯学習の基礎を確実に身に付け、家庭・地域の信託に応える学校
		【目指す児童・生徒像】	未来の創り手として、自ら考え、創造力・表現力に富み、互いを尊重し人の為に尽くす、心身共に健康で活力に満ちた子供
		【目指す教師像】	児童・保護者・地域の願いを受け止め、熱い心と志を持ち、変革に應ずることなく、使命と役割を遂行し、結果に責任を持つ教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	取組の進捗状況	今後の方向性
確かな学力	自ら学びに向かい、創造力・表現力に富み、正解のない課題に納得解を導く子の育成	主体的に学びに向かう力の涵養とともに、学習習慣の確立	「学びのすすめ」「自主学習ノート」「寺子屋」の推進等、授業と家庭学習との連携強化	4 寺子屋…実施回数90%以上 3 寺子屋…実施回数80%以上 2 寺子屋…実施回数70%以上 1 寺子屋…実施回数70%未満	4	4 学年×10分の家庭学習…90%以上 3 学年×10分の家庭学習…80%以上 2 学年×10分の家庭学習…70%以上 1 学年×10分の家庭学習…70%未満	3	振り返りを大切にし、児童が自ら学びに向かう「学びのすすめ」の定着に努めてきた。ふじみ寺子屋はかなり定着し、夏季休業中も効果的に進めた。	保護者会や学校だより等を活用して、本校の「学びのすすめ」を浸透させる。
		生きて働く基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得	UDやICT、授業スタイルやノートの統一、板書や発問の工夫等、効果的な学習指導	4 教科でのICT活用…90%以上の授業 3 教科でのICT活用…80%以上の授業 2 教科でのICT活用…70%以上の授業 1 教科でのICT活用…70%未満の授業	3	4 診断シート正答数半数未満…10%未満 3 診断シート正答数半数未満…20%未満 2 診断シート正答数半数未満…30%未満 1 診断シート正答数半数未満…30%以上	2	分かりやすく、主体的な学びにつながるような授業の工夫はもとより、全学年で1人1台端末を効果的に活用した授業を展開している。	探究学習の成果を土曜の[学習発表授業]で公開し、表現力を高める。
		未知の課題に納得解を導き、新たな価値を創造する力の育成	「探求ノート」を活用した課題解決等、自ら考え判断し表現する学習と深い学びの重視	4 探求ノートの活用…年20回以上 3 探求ノートの活用…年10回以上 2 探求ノートの活用…年5回以上 1 探求ノートの活用…年5回未満	3	4 探究的に学ぶ…90%以上の児童 3 探究的に学ぶ…80%以上の児童 2 探究的に学ぶ…70%以上の児童 1 探究的に学ぶ…70%未満の児童	3	1学期に製本し、冊子になった「ふじみ探求ノート」を全学年で活用し、6年間で段階的に探究力を育成できるように務めている。	「ふじみ探究ノート」を効果的に活用しながら、成果検証をしつかり行う。
豊かな心	認知機能を高め、自分も他の人も尊重し、敬意をもって大切にできる心豊かな子の育成	個性を生かし、相互の信頼関係を深め、自己有用感の醸成	「h-QU」の結果を生かした児童集会や縦割り班活動等、異年齢集団の活動の推進	4 異学年活動…実施率90%以上 3 異学年活動…実施率80%以上 2 異学年活動…実施率70%以上 1 異学年活動…実施率70%未満	3	4 社会通念上のいじめ…0~5件 3 社会通念上のいじめ…6~15件 2 社会通念上のいじめ…16~30件 1 社会通念上のいじめ…31件以上	4	全ての学年で「学級編成替え」を実施し、豊かな関係性を醸成している。全校で、自己有用感を重視した学級経営に取り組んでいる。	QUの結果を踏まえた特別活動を工夫し、豊かな自己表現力を醸成していく。
		認知機能を高め、自他共に敬意をもって関係する力の育成	「コグトレ」や学級活動の工夫による認知機能や感情統制、やり抜く力等の重視	4 コグトレ…実施率90%以上 3 コグトレ…実施率80%以上 2 コグトレ…実施率70%以上 1 コグトレ…実施率70%未満	4	4 意欲的コグトレ…90%以上の児童 3 意欲的コグトレ…90%以上の児童 2 意欲的コグトレ…70%以上の児童 1 意欲的コグトレ…70%未満の児童	4	週1回の「コグトレ」で社会性を育てる認知、感情統制、対人スキル等を育成している。児童は、学校が穏やかで居心地の良い場所と感じている。	コグトレを一層系統的に、社会性、感情統制、対人スキル等の育成に取り組んでいく。
		自他を大切にし、よく生きる、内面に根ざした道徳性の涵養	問題解決的あるいは体験を通した発問構成の工夫、広い視野で考え議論する道徳	4 考え議論する道徳…実施率90%以上 3 考え議論する道徳…実施率80%以上 2 考え議論する道徳…実施率70%以上 1 考え議論する道徳…実施率70%未満	3	4 自分事として考える…80%以上の児童 3 自分事として考える…70%以上の児童 2 計画表!29 1 自分事として考える…60%未満の児童	4	本音で話し合いができる「考え議論する道徳」の授業展開を工夫している。どの学年の児童も、自分の言葉で、自分の意見や思いを語っている。	話し合い活動を充実させ、多面的な意見に耳を傾け、考え議論する道徳を推進する。
健やかな体	基本的な生活習慣を身に付け、運動に親しみ、心身共に健康で活力に満ちた子の育成	新しい生活様式に基づき、人の命を守る意識と行動力の育成	「グッドモーニング60分」等、家庭との協働を強化し、感染防止と新しい生活様式の定着	4 健康観察表未記入…1日平均0~2人 3 健康観察表未記入…1日平均3~5人 2 健康観察表未記入…1日平均6~9人 1 健康観察表未記入…1日平均10人以上	3	4 病欠児童…1日の平均0~3人 3 病欠児童…1日の平均4~7人 2 病欠児童…1日の平均8~11人 1 病欠児童…1日の平均12人以上	4	感染防止の取り組み等を通して、基本的な生活習慣や健康について、家庭との信頼関係を築いている。児童の病欠が大幅に減少している。	「お弁当の日」を中心に、食育の面からも家庭・地域との連携して指導していく。
		基礎的な体力の向上と生涯に渡り運動に親しむ資質能力の向上	「元気アップガイドブック」を活用した運動習慣につながる授業の工夫、家庭との連携協力	4 元気アップの取組…18項目以上 3 元気アップの取組…14項目以上 2 元気アップの取組…10項目以上 1 元気アップの取組…10項目未満	3	4 運動することが楽しい…90%以上の児童 3 運動することが楽しい…80%以上の児童 2 運動することが楽しい…70%以上の児童 1 運動することが楽しい…70%未満の児童	3	中休みに体育委員会が中心として進めている「元気タイム」で運動の魅力や体の成長が実感できる指導法を工夫している。	運動会に向けて、運動への関心が高まっており、継続した取り組みにつなげていく。
		様々な欲求やストレス等に対して、適切に対処できる力の醸成	自殺防止授業の他、全学年で「SOSカード」を活用した多様な対処方法を推進	4 相談できる3人記入…児童の90%以上 3 相談できる3人記入…児童の80%以上 2 相談できる3人記入…児童の70%以上 1 相談できる3人記入…児童の70%未満	4	4 大人に相談できる…90%以上の児童 3 大人に相談できる…80%以上の児童 2 大人に相談できる…70%以上の児童 1 大人に相談できる…70%未満の児童	4	家庭と連携し、心と体の関連性を理解し、適切に対処できる力を育成している。話しやすい大人が校内にたくさんいるという雰囲気になった。	すべての児童が、いつでも心を開いて大人と話ができるように、信頼関係を高める。
輝く未来	未知の課題を思索し、新たな価値観や行動を生み出し、協働して未来を創造する子の育成	言語能力とともに、未知の課題に向き合い思索する力の育成	学校図書館に学習・情報センター機能をもたせ、全教育課程で言語活動を充実	4 図書館機能を活用…全学級月4回以上 3 図書館機能を活用…全学級月3回 2 図書館機能を活用…全学級月2回 1 図書館機能を活用…全学級月1回以下	3	4 読書好感度…80%以上の児童 3 読書好感度…70%以上の児童 2 読書好感度…60%以上の児童 1 読書好感度…60%未満の児童	4	図書館活用で、言語能力を鍛え「読書感想文」、「調べる学習コンクール」に全学年の児童全員が参加した。様々な授業で活用するようになった。	言語能力とともに、未知の課題に向き合い思索する力を育成する方策を立てていく。
		情報活用能力とともに、新たな解を創造する力の醸成	1人1台の端末やオンラインの活用など、見方・考え方を働かせながら思索する場の充実	4 タブレットの活用…全学級週10回以上 3 タブレットの活用…全学級週6~9回 2 タブレットの活用…全学級週3~5回 1 タブレットの活用…全学級週3回未満	3	4 保護者評価…概ね満足80%以上 3 保護者評価…概ね満足80%以上 2 保護者評価…概ね満足70%以上 1 保護者評価…概ね満足70%未満	4	各教科の授業のねらいを達成し、深めるために、タブレットを日常的に活用するとともに、情報リテラシーや情報モラルを育成している。	6年間を見通して系統的・計画的に情報リテラシーや情報モラルを育成していく。
		多様な文化を尊重し、世界の人々と協調し活躍できる人材に育成	キャリアパスポートの活用等、家庭や地域と連携・協働した自己実現への手立ての充実	4 キャリア・パスポート記入…児童の90%以上 3 キャリア・パスポート記入…児童の80%以上 2 キャリア・パスポート記入…児童の70%以上 1 キャリア・パスポート記入…児童の70%未満	3	4 自分事として思考…80%以上の児童 3 自分事として思考…70%以上の児童 2 自分事として思考…60%以上の児童 1 自分事として思考…60%未満の児童	3	計画的な目標の下、「音楽会」に取り組み、SDGsとも関連して学んでいる。キャリア教育は、市統一の様式を系統的に活用している。	キャリア・パスポートを学校と家庭がしっかりと共有し、一人一人の児童を支援していく。